

平成 29 年度 実験動物感謝式が挙 行されました

12月5日（火）講堂小ホールにおいて「平成 29 年度実験動物感謝式」が挙行され、動物実験に携わる教職員、学生約 120 名が参列し、教育・研究のために尊い命を捧げてくれた実験動物に心から感謝し、実験動物慰霊碑に献花を行いました。



三重大大学では医学・生命科学の進歩のために供せられたマウスやラットなどの実験動物に感謝の念と敬意を表し、毎年執り行っています。

式の冒頭では地域イノベーション推進機構 先端科学研究支援センター長より「近年、生命科学の進歩はめざましく、その進歩は長年にわたる動物実験の上に築かれてきたもの。研究の犠牲となった動物に感謝の意を捧げるとともに、今後の実験においても動物愛護の精神に則り、研究倫理に基づき十分な配慮をもって行なう」と式辞が述べられました。



式の最後には動物実験施設統括責任者から参列者の方々に謝辞が述べられ、動物実験の基準についての理念である 3 R、**Replacement**（できる限り動物実験に代わる方法で）、**Reduction**（使用動物数を最小限に）、**Refinement**（苦痛を与えないように）の再確認が行われ、今後も適正に実施することを誓いました。